

令和6年第10回 吉田町教育委員会

- 1 開催期日 令和6年9月26日(木)
開会 午後 3時20分
閉会 午後 4時52分
- 2 場 所 自彊小学校 多目的室
- 3 出席委員 塚本 成男 北澤 雅恵
増田 真也 中村 成宏
- 4 議場に出席した者の職氏名 教 育 長 山田 泰巳
学校教育課長 糸田 真男 生涯学習課長 山脇 一浩
学校教育課長補佐 岸端 準成 主席指導主事 水嶋 浩之
指 導 主 事 田中 久美 学校教育課統括 川本 貴浩
- 5 傍聴人数 0人

次 第 (会議録概要)

- 1 開 会
- 2 教育長の報告 資料No.1
(1) 報告事項 9月の教育委員会の行事
(2) 町内教職員の状況 交通事故(物損)
(3) その他 校務用端末納入
- 3 会議録署名委員の指名 中村委員
- 4 議 事
(1) 報告事項
ア 生徒指導について 【非公開】 資料No.2
(2) 協議事項
ア 吉田町総合教育会議について 資料No.3
・事務局説明

(委員からの質疑・意見)

- ・部活動の地域移行について、事務局案として、ある程度の方向性を作っている段階だと思うが、最後にネックになるのは指導者の報酬。その辺は、町当局に支援をお願いしたい。部活動に代わる子供たちの文化や運動に対しての興味・関心、参加を促すことができるか、それが子供の成長に必要である。一度、総合教育会議で議題に挙げておくことはいいことだと思う。
- ・トリビンスプランについてのアンケートで、保護者が子供たちの確かな学力の保障について、どの程度何を期待しているのかということを知りたいと思っている。昔は分かりやすかった。良い学校に行って、良い大学に行って、良い会社に入るというような。そのような世の中ではなくなってきた時に、自分で考えるという話になっていって、ただ、世の中では力のある人間が高い報酬を得ている。それが幸せとは限らないが、高い報酬を得るという世の中になっている以上は、保護者はそういう世の中であって何を期待しているのか、特に中学生の保護者は、どういう高校に行かせることが良いのか、その先の大学に行かせることがいいことだと思うのか、また、その先の例えば上場企業に入ること期待するのか、起業家になることを期待するのか。多様化しているので、様々だと思う。子供の将来を考えて、どういう学力を保障してもらいたいのかをアンケートで聞いてもらいたい。⇒ アンケートについては、10月1日に保護者と教員へ依頼する。基本は、三つの柱に対して、それぞれ二つの指針があるので、それについての評価、その指針に迫るために施策があるので、その施策について、一つ一つどう感じているかというところで、アンケートはつくっている。保護者が学力をどう捉えるのかということは大きなこと。親がどんなことを学校教育に求めているかを入れることができるか分からないが、親が学校教育の中で子供たちに力をつけてもらいたいと思う選択肢をいくつか設けて記入させるような形であれば、アンケートの一つの項目の中に入れ込むことはできる。こちらで選択肢を拾う形になると思うが、親はこういうことを望んでいるんだなということを掴むことはできると思う。
- ・中学3年生の保護者は、昔は部活動で一生懸命やって、県大会へ出場すれば高校はこういうところに内申書を書いてもらえるから部活を頑張る、先生に内申書を書いて欲しいということが事実かどうかは分からないが、そういう保護者の期待があった。昔は、進学校でいえば榛原高校があって、志太地区では焼津中央高校や藤枝東高校があって、その先には、静岡高校や清水東高校があると。学力でそういう高校を目指して、その後の大学で大きいステップを踏んで欲しいという期待があった。今、高校自体も学校の在り方や進学校でも県からの補助金の指定がある。地域に特化したり、地域との連携があると思うが、特に中学校の保護者がどういうことを期待していて、吉田中学校としては、どうい

進路を選択していくのか、指導しているのかということを知りたい。学校の先生も時代が変わっていった、どういうふうに感じているのか知りたい。

- ・私は、安心して通うことができる学校を期待する。進路は各家庭の問題で、子供の能力を伸ばしたいから子供に合ったものをその家庭で考えるということがあって、それに学校は何をしてくれるかと言ったら、問題を起こさないように、いじめがないように、不登校にならないようにといったことを学校に求めていると思う。上に上がりたいと思っている子供は各家庭で支援をしていると思う。各家庭で異なる考えがあると思うが、学校の土台がしっかりしていて、進路指導で子供に合ったアドバイスをしていただけたらと思う。⇒ どういう進路指導をしているかということについては、昔は、テストの点数や通信簿のいわゆる内申点というところで、行けるか行けないところの目安みたいなものが一つの指導の中で具体としてあった時代もあったけど、そういう指導は基本的にはできない。要は、この点数だと受験ができるかできないかみたいな言い方をして、受験すら学校の先生のところまで切られてしまうような指導は絶対にできない。まず、面談の時に、どういう学校に行きたいのかということ話をした時に、先生の言い方としたら、もう少し頑張らないと厳しいかもしれないという言い方をするか、自信を持ってやれと言いかということの言葉のニュアンスの中で、自分はその学校への可能性はどうかということ判断してもらいたいような言い方しかできない。
- ・学調の話になるが、細かく見ると、児童生徒実態調査では、吉田町はいい数字がある。それが、心の問題やみんなで力を合わせるとか道徳的に高いところがあったりして、いいこともたくさんある。親もそこを期待しているならば、もちろん確かな学力をつけることは必要だが、すごく評価されて然るべきだと思う。そこをあまり深堀りせずに学力の部分ばかりやるよりもいいところがあるので、自分はすごく評価できると思う。テストの点数だけで見ると全国的に低い、吉田町ではすごく良いところがあるということ保護者も期待しているという、トリビンスプランの方向性としても聞き方が変わるという感じがした。

イ 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果（公表案）について 資料No.4

- ・事務局説明
(委員からの質疑・意見)
- ・全体として分析の文章や考察といった言葉があると分かりやすい。それを受けて、改善に向けてつながると思う。最後の9ページ以降の調査結果で、小学校と中学校の棒グラフの方が分かりやすい。
- ・答えがあると分かりやすい。5ページの問題はショックを受けた。3年生の先生が一番ショックを受けたと思う。

- ・少し考えれば分かるだろうというところが意外と分かっていない。
- ・最終的に保護者や町民に向けて公表するので、改善に向けて、向上会議で対象がそういうところであるということを理解した上で、分かりやすく書いた方がいいと思う。
- ・主体的、対話的で深い学びが一つのテーマ。学校訪問の時におとなしく集中して考えるというシチュエーションをあまり見てないなと思った。深い学びとはそういうところ。自分で生み出す行為が足りないのかもしれない。
- ・どんな間違い方をしているのか、深く考えすぎてどちらに向かっているのか、子供の頭の中を見てみたい。この答えはそうやって出てきたんだなと。
- ・三つの要素というのは、主体的な学びと対話的な学びともう一つは何か。⇒ 今、言われてるのは、三つの資質能力というのがあって、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、三つ目が「学びに向かう力・人間性」というものがあって、それを育むためには、主体的で対話的で深い学びをしていくといいというのが国の方針で示されている。
- ・単純に言うと、一生懸命やっているけど分かってないということ。正直な話、分からないからテストができなかったということ。自分たちになりに一生懸命やっているつもりだけれども、実際は、自分が分かっているのかなと思うと分かっていないなと子供たちも思っている。結果を真摯に受け止める必要があると思う。
- ・授業の雰囲気を見ると、分かった気になっている感じだったけど、実は力は付いてなかったみたいのところか。授業にも参加していて、授業が楽しいし好きだ。しかし、実は力が付いていなかったということ。⇒ よく教育委員会内で話題になるが、深く考えることは、子供たちだけではなかなか難しいので、先生が揺さぶって深く考えさせる支援が今までの授業の中では意図的に展開されていて、みんなで解決しようみたいな感じで45分の授業を展開させることに力を注いで、深く考えさせるためには、どう展開しようか、揺さぶりをかけようかをやってきた。しかし、今、個々になってきているので、そのタイミングを個々で使う難しい部分がある。全てを自由に委ねるのではなくて、考える時も一斉に考えたり、必要なことに対しては、みんなで考える場面があってもいいとか、ICTばかりに頼るのではなくて、紙でやりたかったり、話したかったり、実際の物を持ってきたりといろいろなパターンがあると思うので、その選択肢を平等にしてやることを子供たちが選択できる環境になっていくといいのかもしれないということを話している。
- ・個々の見取りができていくかという話で、端末を使うことによって、3年前に比べたら、たくさん文字数を打って自分の考えや感想をたくさん書けるようになっていく。書けているからいいで終わっている先生がいるとしたら、書いて

ある内容はどうなのか、どの程度理解できているかというところまでの見取りはなかなか難しいとなると、個別の支援はできない。何でもいから自分で家庭でも勉強していきましょうという話になった時に本当にこの子がしなくてはいけない学習をしてるかどうか、結局はそういう個々への見取りや対応ができるかどうかというところの先生に求められる力がより難しくなっているような気がする。

- ・見取った時に何をするかと言ったら、対話だと思う。要するに、自分の考え方を書いたというのはそれだけに過ぎない。みんなと一緒にいるから、自分と違う考えのことを対話して自分の考えを深める必要があつて、そこが深い学びであるがやってないということであると思う。共有して終わってしまっているの、深くないという、そこが課題なのではないかと思う。⇒ 端末を使うことのプラスの効果の中で、クラウド上で管理できるから人の考えも見ることができるところが利点だと言っているが、本当に利点として使えているのかということ。ICTを使用している授業の平均点が四層に分かれているが、よく使っていると答えた子供の平均点は確かに高いが、全体の正答率が下がっている。
- ・単純に読書をしている子供は、国語の数字が高いということであれば読書を読めればよいということ。クロス集計で使えるものがどのくらいあるのか、親へ意識を促すためには、その方が響く。いろいろアプローチの仕方があると思う。

5 その他

- ・教育委員報告
- ・令和6年第3回吉田町議会定例会について
- ・吉田町立小・中学校処務規定について
- ・教育委員会視察研修について
- ・今後の教育委員会等の予定について

6 閉 会